

大学入学者選抜と生成AI

— 志望理由書は入試に使えるのか —

九州工業大学 高大接続センター
アドミッションオフィス 木村 智志

※本研究の一部はJSPS科研費24K06084の助成を受けています

※本発表は木村智志 他（2025）「生成AIが事前提出型課題の書類審査に与える影響」の内容を再編・加筆したものになります

資料の転載、複製、改変などは禁止いたします

©2025 KIMURA Satoshi

本日の流れ

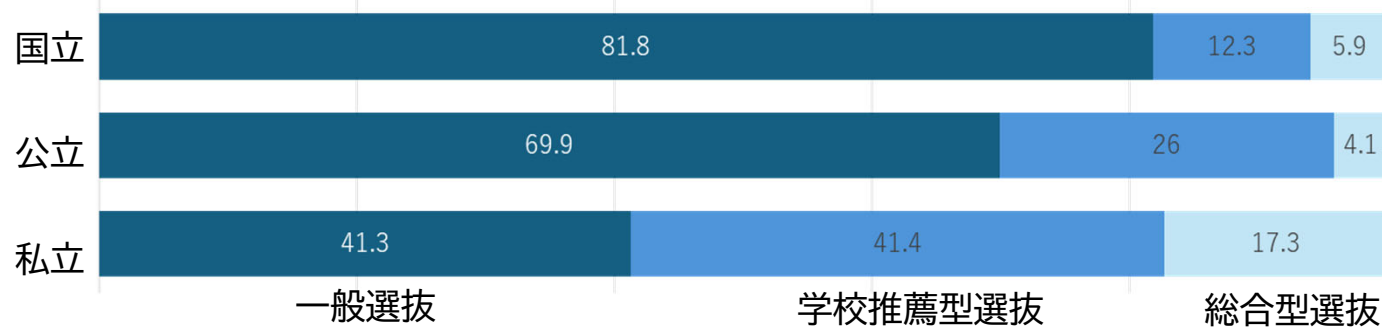
1. 生成AIの普及と大学入学入学者選抜への影響
 - ・生成AIの登場と爆発的な普及の現状
 - ・高校生は生成AIを使おうと思っているのか？
 - ・大学はどのように対応しようとしているのか？
2. 生成AIを用いて作成した書類をまぎれさせた時の模擬評価
 - ・自由度の高い書類の評価への影響
 - ・短い文章の評価への影響
 - ・レポート型
3. 今後も志望理由書を入試に使うなら

大学入試改革とその状況

現在は学校推薦型選抜と総合型選抜を合わせると大学入学者の50%を超えている

令和5年度入学者の選抜区分の内訳

文部科学省「令和5年度国公立大学・短期大学入学選抜実施状況の概要」より作成



学校推薦型選抜 … 書類審査・調査書・推薦書・面接等を主な資料として、評価・判定する入試方法

総合型選抜 … 書類審査と面接等を組み合わせることによって、総合的に評価・判定する入試方法

高校生の生成AIの活用状況

九州工業大学の大学1年生のうち42.5%が「大学入学前に生成AIを利用したことがある」と回答 [2024年8月]

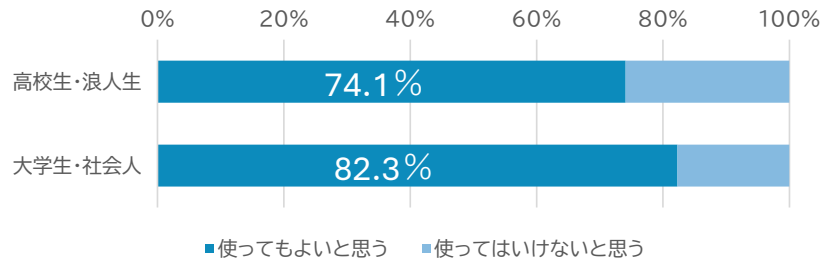
調査会社にて実施したWEBアンケートでは高校生・浪人生の24.1%が「生成AIをよく利用している」と回答 [2025年3月]

+ 推薦・総合型特化塾に加えて、生成AIを活用した志望理由書添削サービスがリリースされている状況

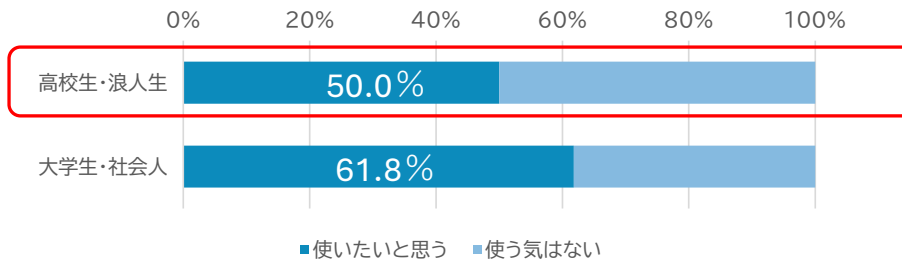
15～26歳を対象とした意識調査

2024年10～12月に複数の方法でアンケート調査を実施

Q1.受験や就職活動等で受験者が生成AIを活用することについてどう思いますか？



Q2.受験や就職活動等で機会があれば生成AIを活用しようと思いませんか？



※ 高校生・浪人生:292名

大学生～社会人(18～26歳):289名

大学の対応状況

多くの大学が大学での学修における生成AIの利用について何かしらの指針を公表

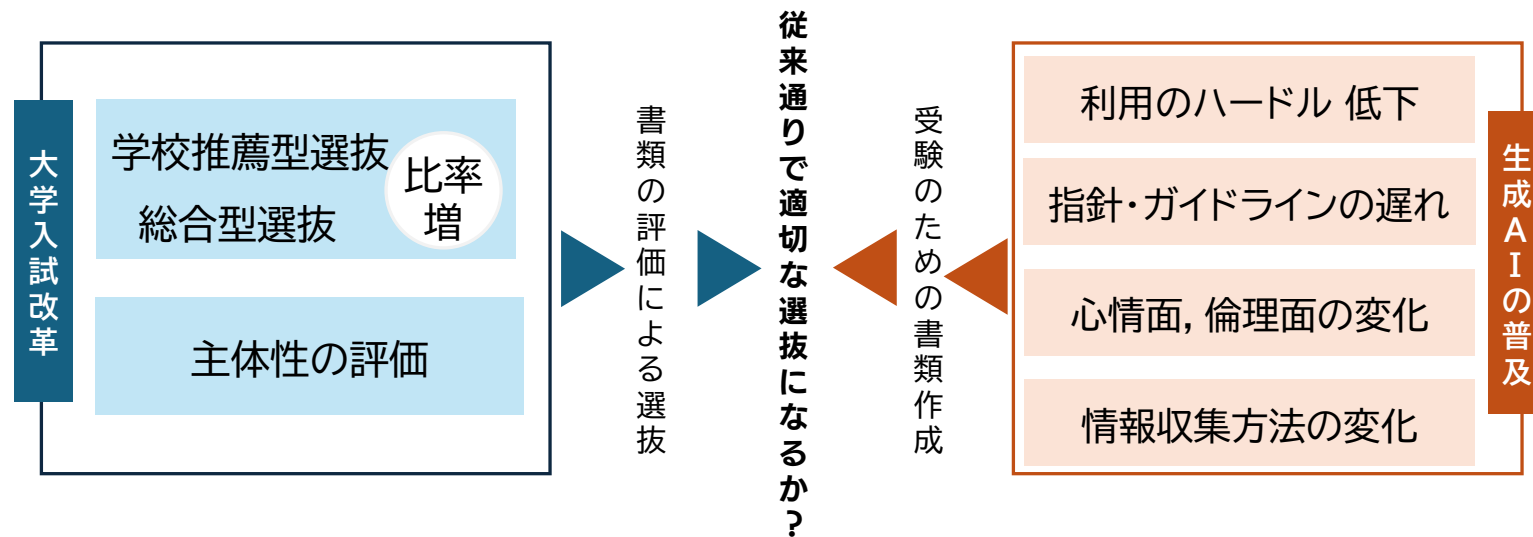
一方で...大学入学者選抜の場面については

対応の方向性を決定した 5% 検討中 25% 検討していない 68% [2023年上野創]

- 「使用を全面的に禁止」16%、
- 「使用した場合に申し出るよう求める」13%
- 「専用ソフトなどで使用を点検」9%

方向性を明らかにする場合はだいたい次の3パターン

- ・完全に利用を禁止している
- ・そのまま使用するなどした場合は不正行為と認定する
- ・適切にかつ自らの責任において利用する分に関しては許容する



本研究では, まず大学入学者選抜という場面において
事前提出型の課題で

「生成AIを活用した出願書類と活用しない出願書類に差異が生じるのか」

ということについて調査

今回の発表では

1. 自由度の高い書類 → 総合型選抜(総合Ⅰ)「学びの計画書」
2. 短い文章 → 一般選抜(前期)「志望理由書」
3. レポート型 → 総合型選抜(総合Ⅱ)「課題解決型記述問題」

自由度の高い書類の評価への影響

方法1(評価の観点)

評価の観点

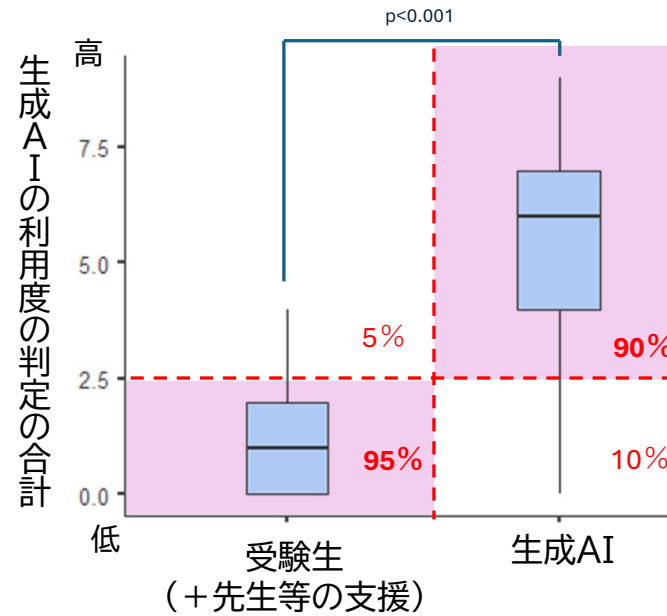
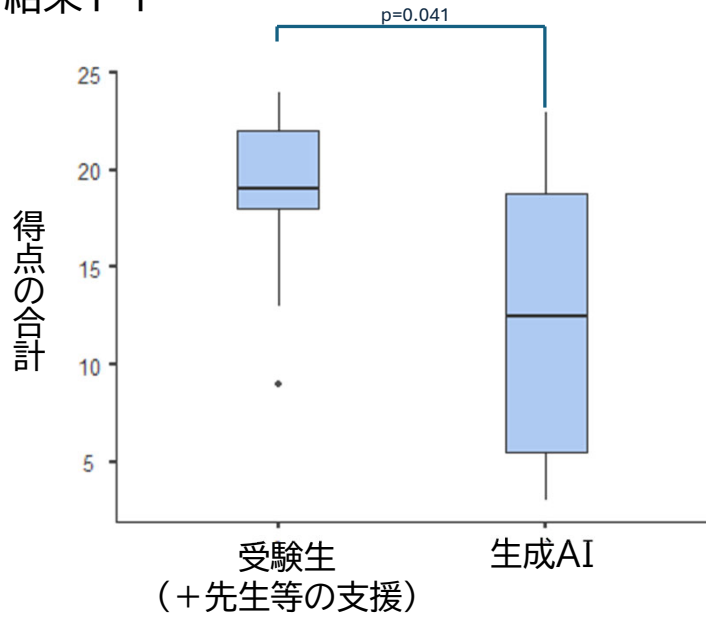
- I 「入学前の課題」と「入学後の課題」についての設定と取り組み方を記述しているか。
- II **これまでに**主体的に学びに取り組んできたか。
- III **過去の経験から**大学での学びの動機付けが明示されており、学びの目標を記述しているか。
- IV 主体性を確立した上で、他者と協働して学ぶ行動指針が示されているか。
- V パラグラフ毎に主題がまとめられており、文章構成が成立し、**問いに対して**答えられているか。

※「問い」には下記の内容を含む。

- ・**これまでの「学び」の事例**を挙げそれらと比較しながら、**自分の考え**を自分の言葉で示すこと。
- ・**これまでの行動や学びの経験を具体的に示しながら**、学びたい内容や分野を示すこと。

自由度の高い書類の評価への影響

結果1-1



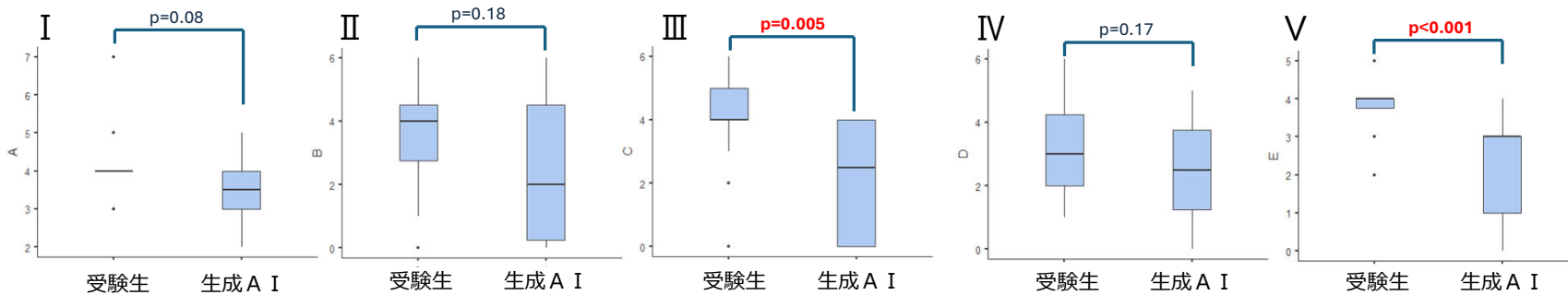
生成AIで作成したものは、実際の解答に対して低い

AI判定の閾値を2.5としたとき93%の精度※で判定

※精度 = $(TP+FP)/(TN+TP+FN+FP)$

自由度の高い書類の評価への影響

結果1-3 観点別の得点合計の分布



I 「入学前の課題」と「入学後の課題」についての設定と取り組み方を記述しているか。

II **これまでに主体的に学びに取り組んできたか。**

III **過去の経験から大学での学びの動機付けが明示されており,** 学びの目標を記述しているか。

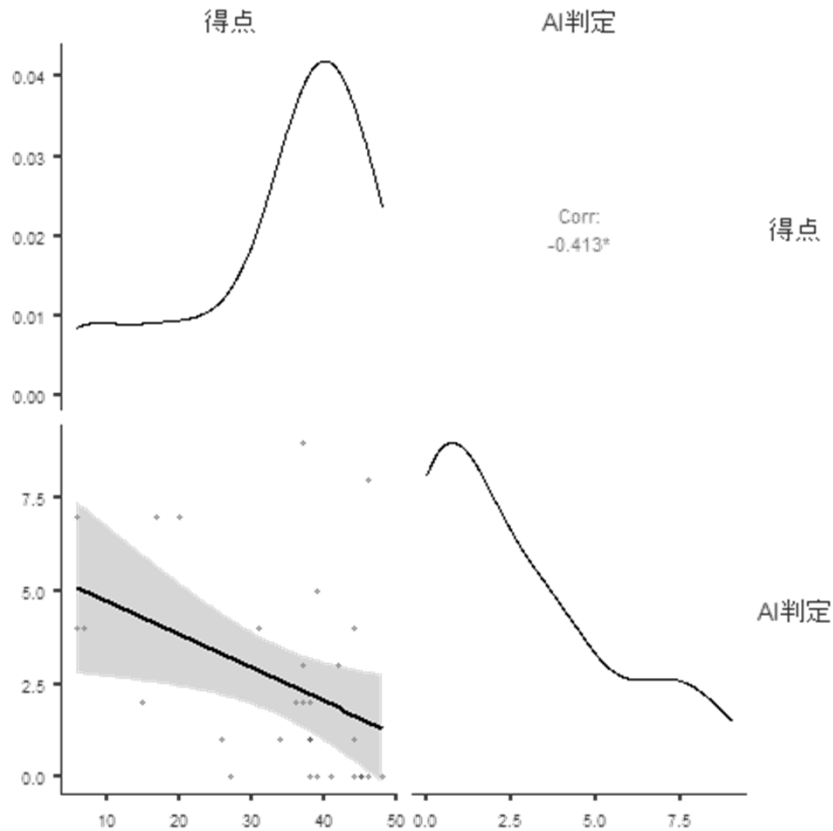
IV 主体性を確立した上で、他者と協働して学ぶ行動指針が示されているか。

V パラグラフ毎に主題がまとめられており、文章構成が成立し、**問いに対して**答えられているか。

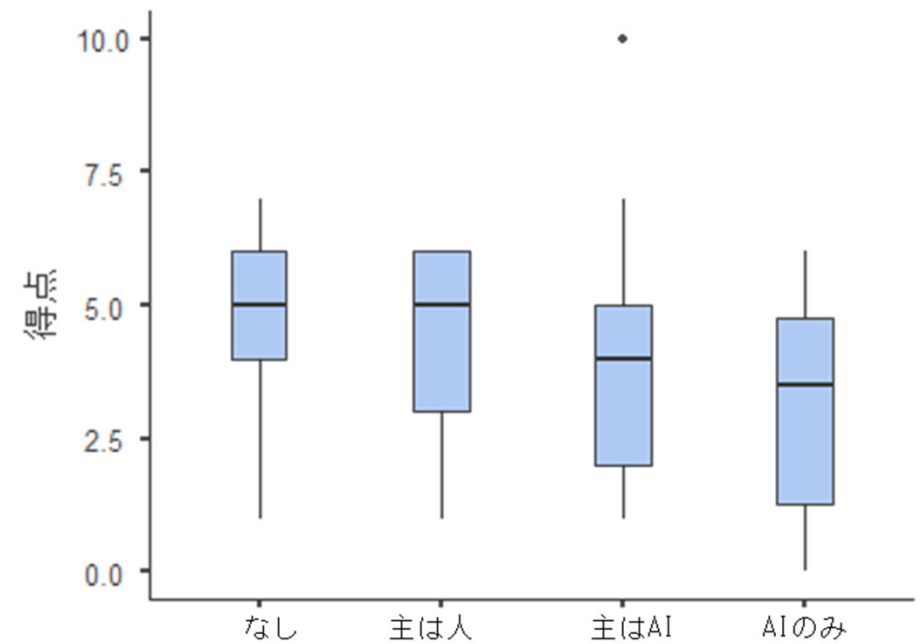
観点III, Vは有意に受験生の方が高い。(但し観点Vは受験生内で評価の分布が小さい)

自由度の高い書類の評価への影響

結果1-2 AI判定と得点の関係



【AI判定結果別の得点分布】(10点満点/評価者)



AIを使用しているという印象を持たれた答案は得点が低くなる傾向がある。

短い文章の評価への影響(1)

方法2

内 容 九州工業大学 一般選抜(前期)の「志望理由書」
(原則)400字以内で記述

サンプル 2023年5月に情報工学を学ぶ大学3年生(126名)が下記の方法で作成した490件

A 生成AIを利用しないで作成

B 生成AIのみで作成

C 生成AIを議論の相手として作成

D A~Cを踏まえて生成AIのみで作成

※使用した生成AIの種類やプロンプトについては大学生に一任した。

評 価 者 大学・大学院生 4名 大学教職員 1名 計5名

入学者選抜を模した3観点3段階(0,1,2)のルーブリック(平均して6点満点)で評価

AI判定 「0:AIの使用はない」「1:主は人」「2:主はAI」「3:AIのみ」

(株)ユーザーローカル社の生成AIチェッカーを用いて「生成AIらしさ」の判定(100点満点)

短い文章の評価への影響

方法2(評価の観点)

【指示文】

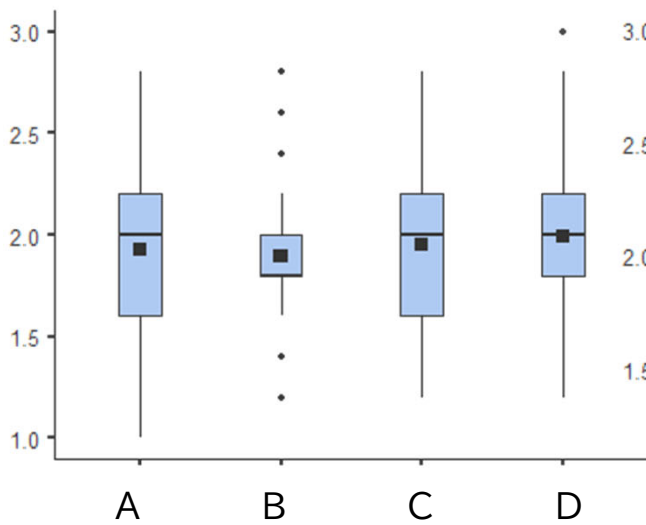
あなたが解決したい, または, 変革したいと考えている社会や個人の課題を挙げ, その課題解決に向けて九州工業大学入学後に学びたいことや目標とすること, 努力したいことについてまとめたものを入力してください。

- 評価の観点
- I 工学系技術者としてふさわしい課題を挙げられているか。
 - II (短い文章で)他者が読むことを意識した論理的な文章を記述できているか。
 - III 課題解決に向けた学びや目標に対してどのように取り組もうとしているかを具体的にイメージできているか

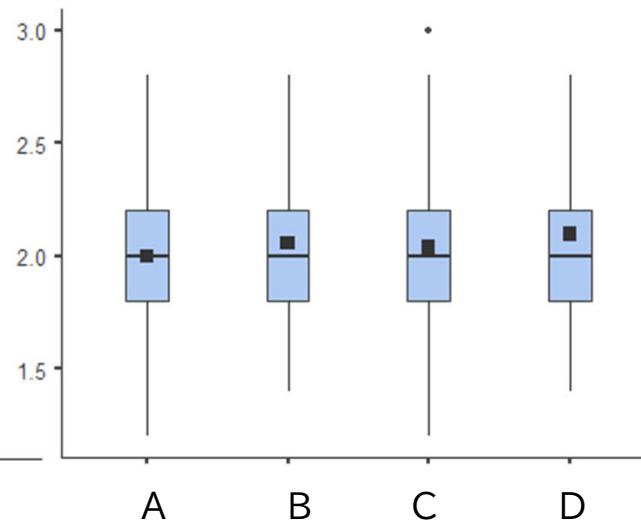
短い文章の評価への影響(1)

結果2-1 作成方法と観点別の得点

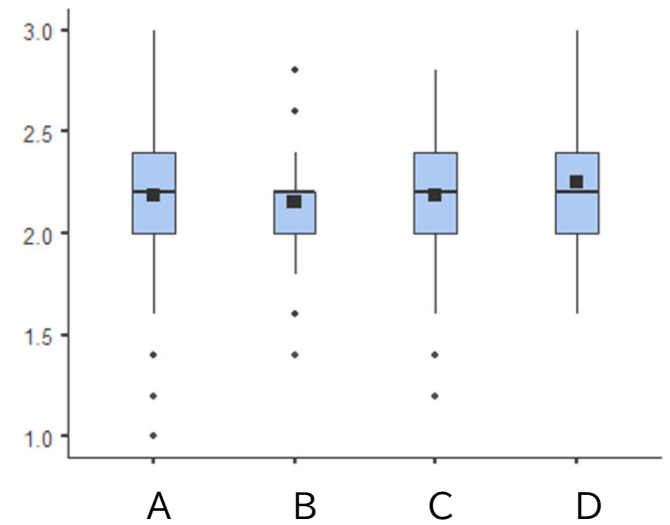
観点Ⅰ(適性)



観点Ⅱ(リテラシー)



観点Ⅲ(主体性)



A 生成AIを利用しないで作成

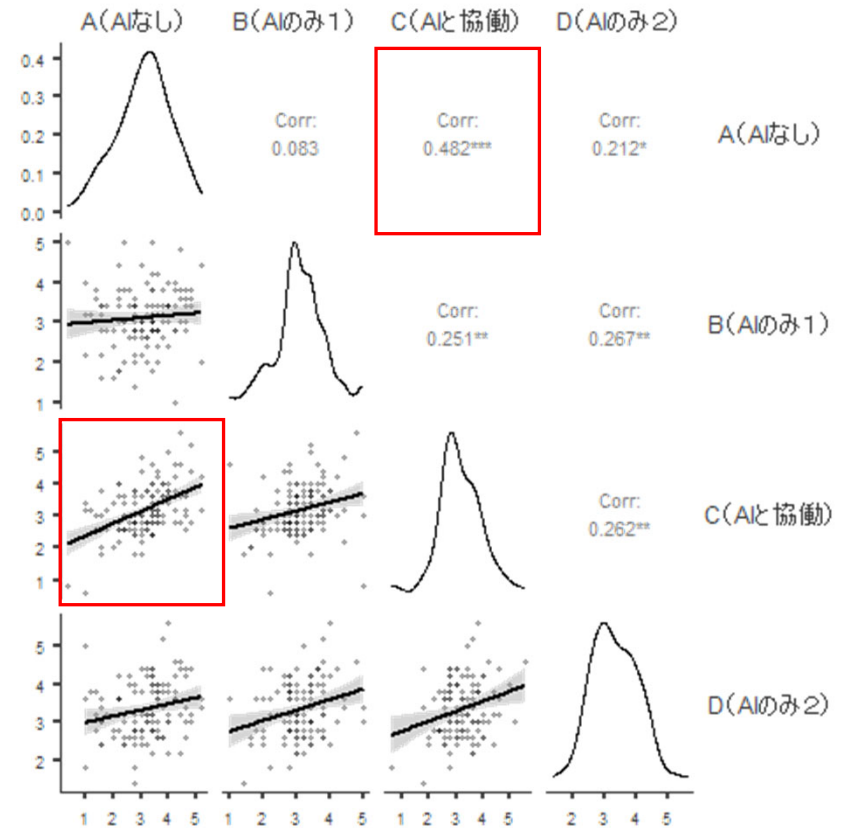
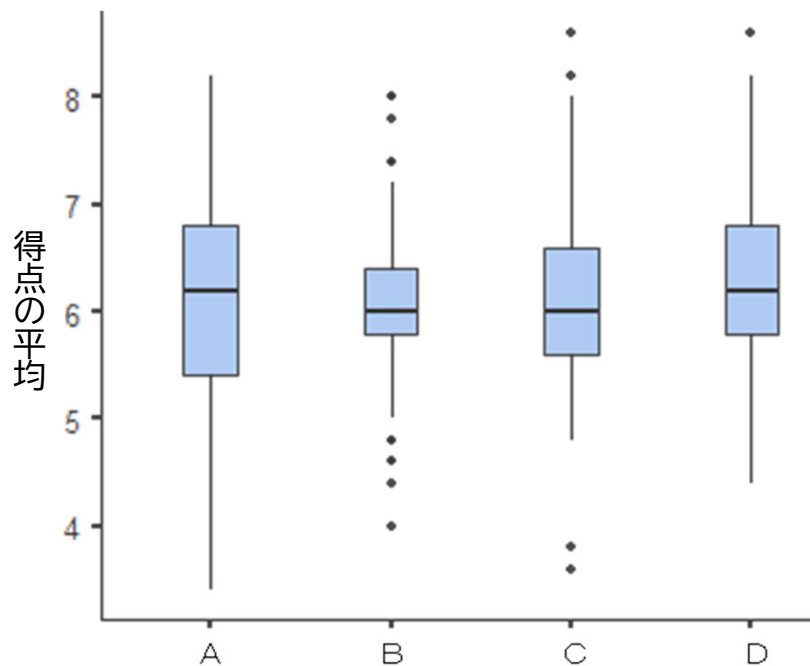
B 生成AIのみで作成

C 生成AIを議論の相手として作成

D A~Cを踏まえて生成AIのみで作成

短い文章の評価への影響(1)

結果2-2 作成方法別の得点



A 生成AIを利用しないで作成

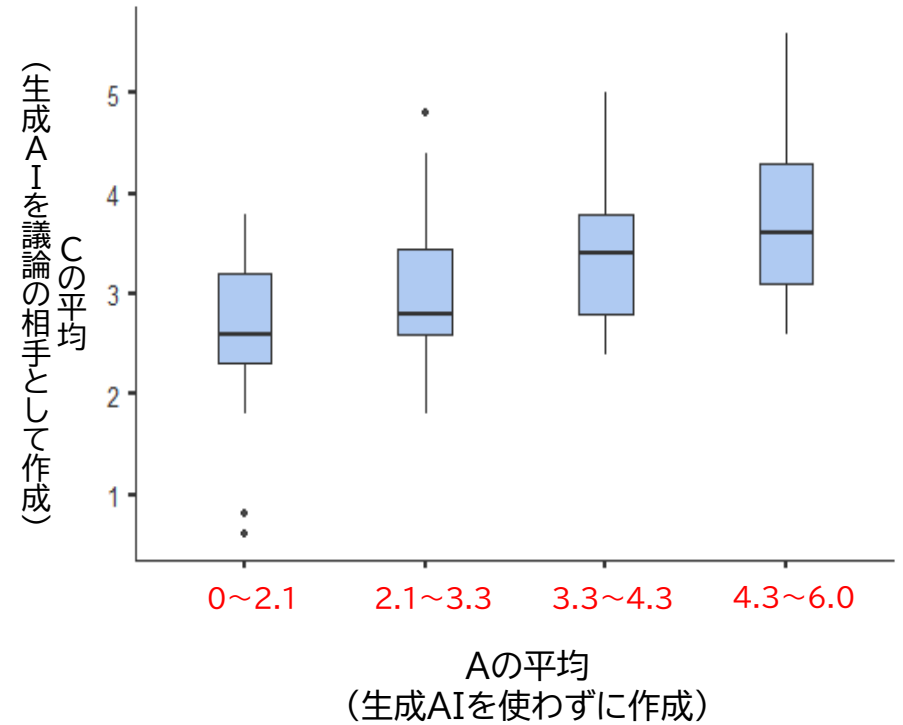
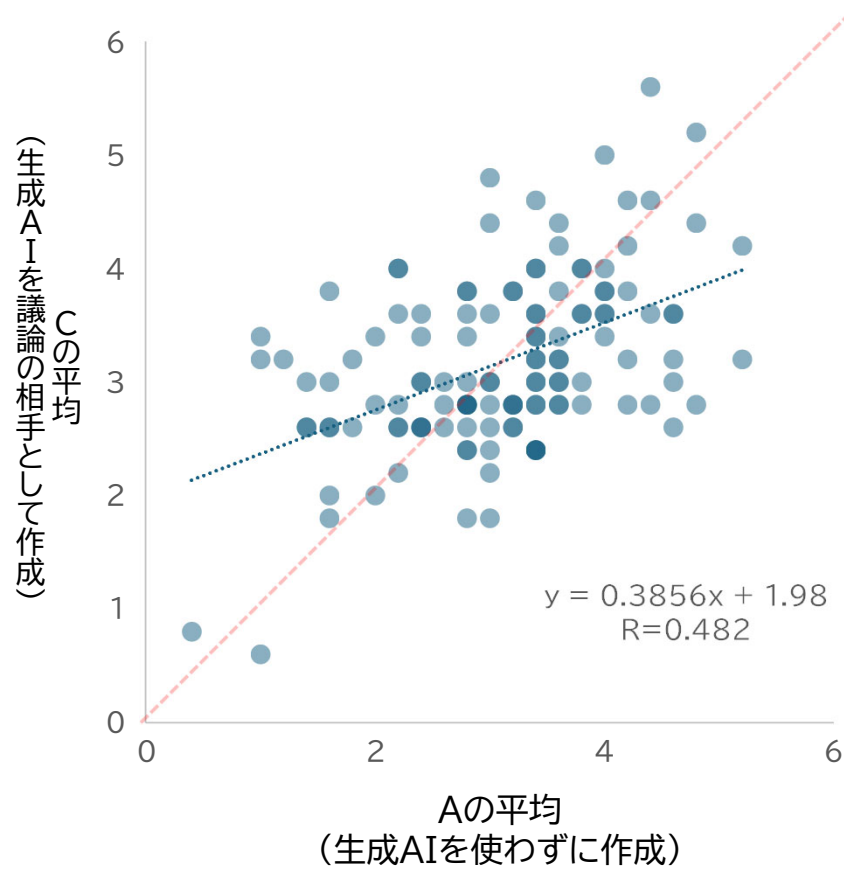
B 生成AIのみで作成

C 生成AIを議論の相手として作成

D A~Cを踏まえて生成AIのみで作成

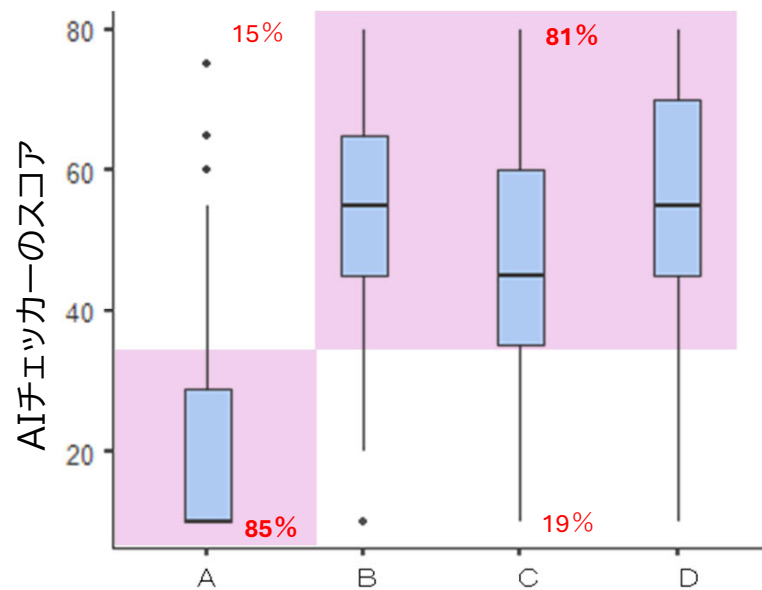
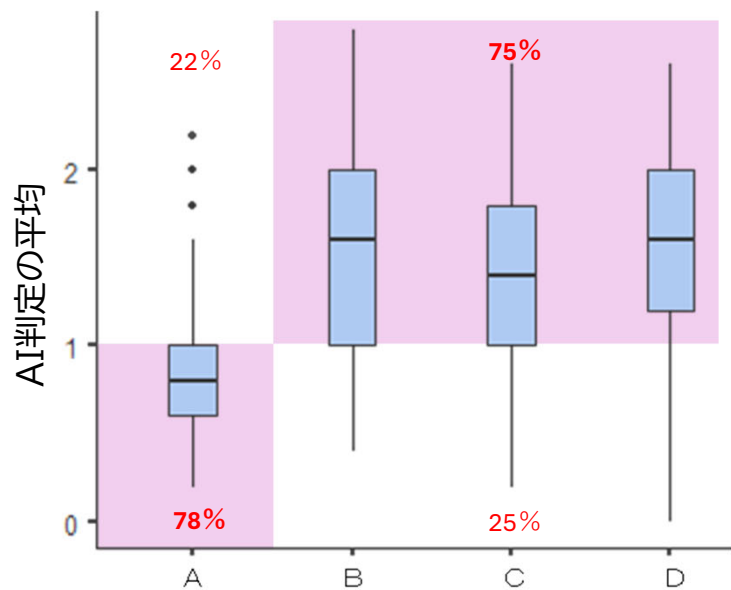
短い文章の評価への影響(1)

結果2-2 A(生成AIを利用しないで作成)とC(生成AIを議論の相手として作成)の比較



短い文章の評価への影響(1)

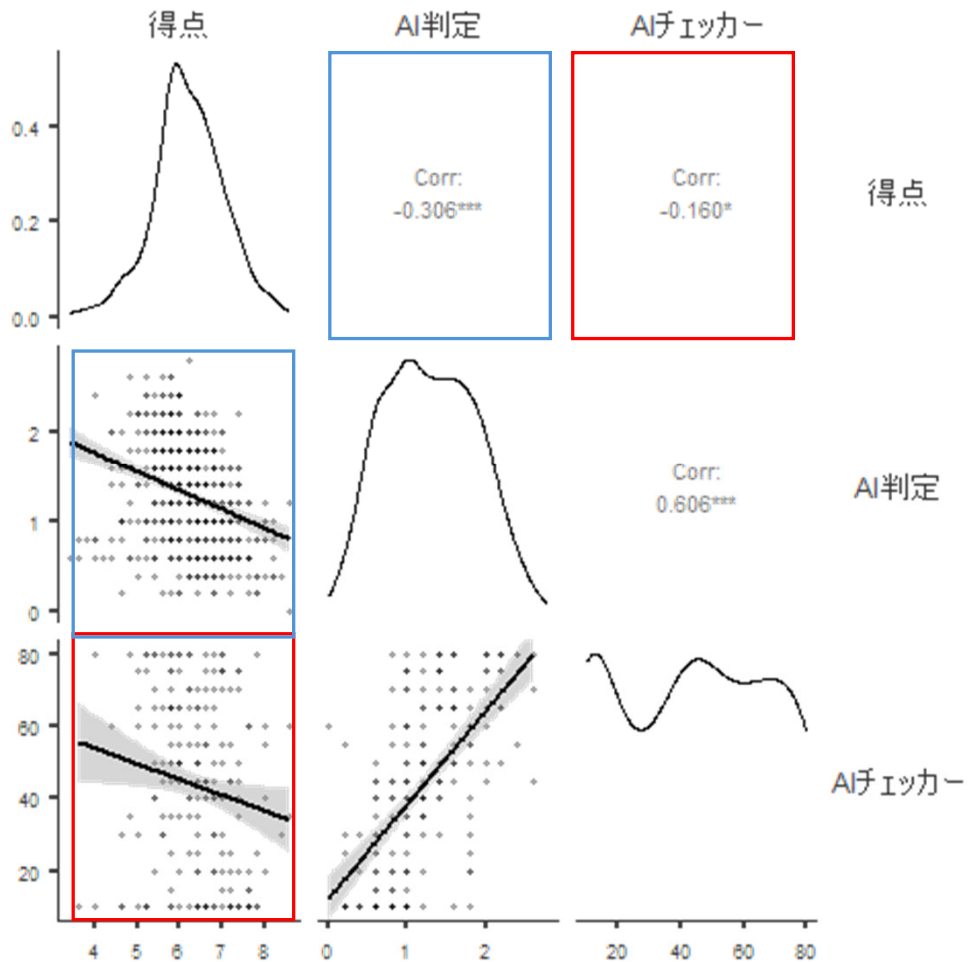
結果2-4 作成方法別のAI判定



※精度 = (TP+FP)/(TN+TP+FN+FP)

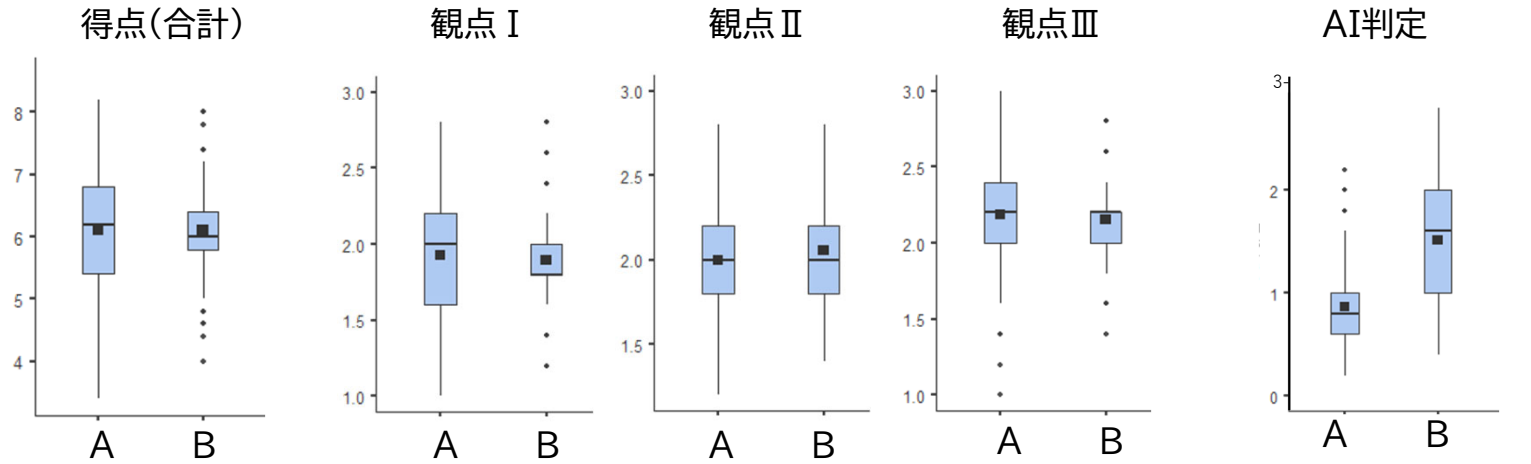
短い文章の評価への影響(1)

結果2-5 AI判定と得点の関係

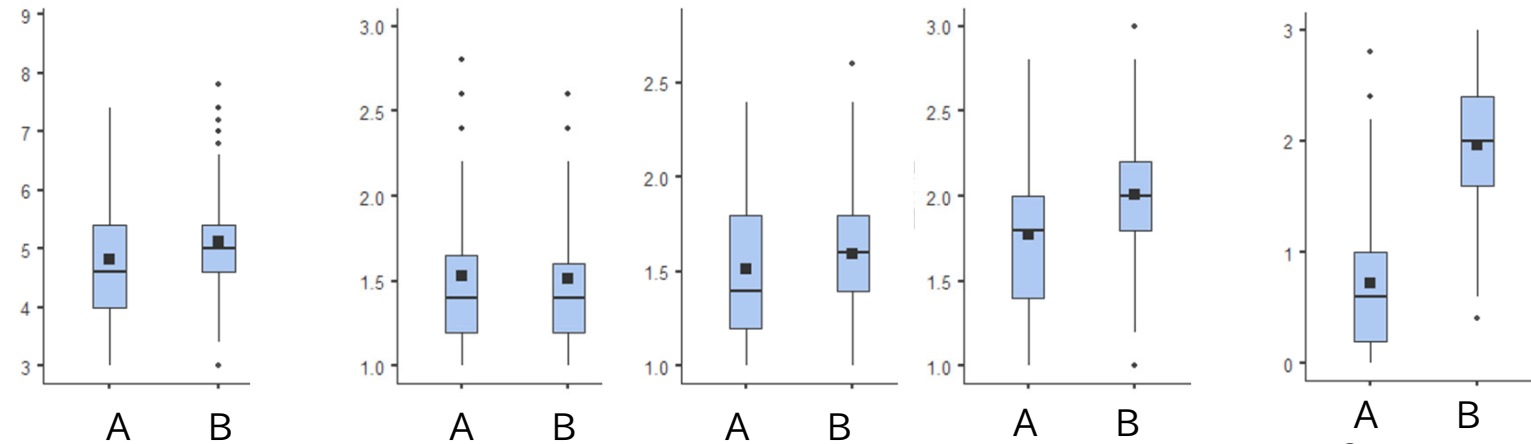


短い文章の評価への影響(経年比較)

2023年 5月作成
評価者
大学・大学院生 4名
大学教職員 1名



2024年 5月作成
評価者
大学・大学院生 3名
大学教職員 2名



まとめ

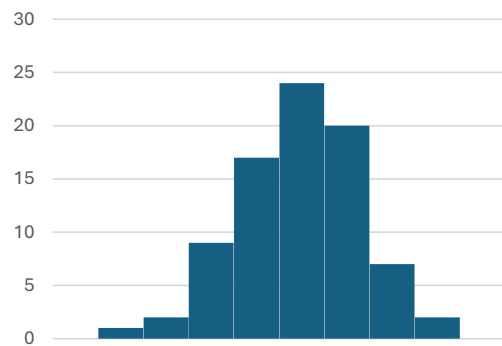
- 比較的自由度が高く、文字数の多い文章であればAIの利用について推定できるが、**短い文章のみだと難しい**。専用のソフトも入試の場に適応できるほどの精度はない。
- 実際に生成AIを利用しているか否かに関係なく、**評価者が「生成AIを利用している」という印象を持つとやや得点が低くなる傾向**がみられた。
- (現時点では)生成AIのみで作成した場合、そうでない場合に比べると低い得点になる可能性が高い。
- 生成AIを相談相手として使う場合、**低い得点の受験生の得点が上がるため、得点の分布が小さくなり**、受験生の実力が反映されにくくなると考えられる。(第三者からの助言でも同様の効果が生じうる。)
- (現時点では)生成AIの利用を許可しても出題内容や評価観点を工夫することである程度実力を評価できる

Q.志望理由書は入試に使えるのか

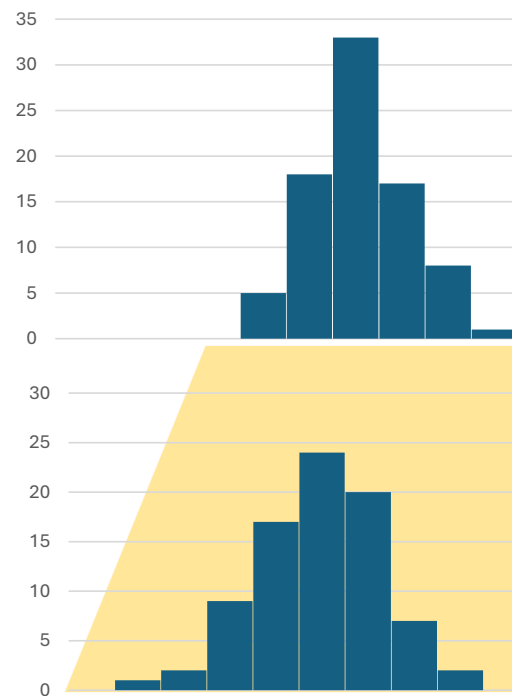
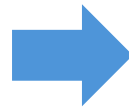
A.近い将来、現状のやりかたを変えずに続けるのは厳しくなるだろう

→出題内容を生成AIがある前提での検討が必要

→評価観点や配点の工夫が必要



そのままと



評価基準の
ラインを上げる



参考文献

- 朝日新聞社(2023). 大学入試, 生成AI どうする? 面接重視? 識者「文化変わるかも」, 朝日新聞デジタル(2023/7/6)
- 古矢 一翔・林 浩一(2023). 公務員試験対策のための対話型生成AI の活用, 情報教育シンポジウム論文集(2023)204 - 209
- 長谷川洋介 他(2023). マイナビ 2024年卒大学生 活動実態調査(5月), マイナビキャリアリサーチラボ
- 河合塾(2023). ChatGPT等の生成AIに関するアンケート調査結果概要, Kei-Net Plus
- 加美山若奈・倉元直樹(2024). 多様化した大学入試の類型化—出願書類の階層クラスター分析から—, 大学入試学会誌1, 125-136
- 木村智志 他(2024). 九州工業大学における多面的・総合的な入試の制度設計検証Ⅱ, 大学入試研究ジャーナル (34) 126-133
- 木村智志 他(2025). 生成AIが事前提出型課題の書類審査に与える影響, 大学入試学会誌2, 69-79.
- 日本財団(2023) 18歳意識調査「第57回—生成AI—」報告書, <https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2023/20230901-93494.html>(最終閲覧2024.9.12)
- 森健・林裕之(2023). 日本のChatGPT利用動向(2023年4月時点)～利用者の多くが肯定的な評価～, 野村総合研究所デジタルエコノミー, 25, 56-64.
- 大森不二雄 他(2023). 全国の大学生のChatGPT利用実態が初めて明らかに ～大学生のChatGPT利用状況と能力形成への影響に関する調査結果(速報)～, 科学立国のための大学教育変革センター(DBER Center)
- 上野創(2023). 大学入試の出願書類、生成AI使うのはアリ? 大学「面接を丁寧に」, 朝日新聞(2023.10.17)
- 文部科学省(2024). 令和5年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要
- 福原将之(2023). 教師のためのChatGPT入門. 明治図書
- 古矢 一翔・林 浩一(2023). 公務員試験対策のための対話型生成AI の活用, 情報教育シンポジウム論文集(2023)204 - 209
- 長谷川洋介 他(2023). マイナビ 2024年卒大学生 活動実態調査(5月), マイナビキャリアリサーチラボ
- Jacob Steiss ,Tamara Tate, Steve Graham, Jazmin Cruz, Michael Hebert, Jiali Wang, Youngsun Moon, Waverly Tseng, Mark Warschauer, Carol Booth Olson.,(2024.)Comparing the quality of human and ChatGPT feedback of students' writing. Learning and Instruction, 91, 101894
- R Core Team (2022). R: A Language and environment for statistical computing. (Version 4.1) [Computer software]. Retrieved from <https://cran.r-project.org>. (R packages retrieved from CRAN snapshot 2023-04-07).
- The jamovi project (2023). jamovi. (Version 2.4) [Computer Software]. Retrieved from <https://www.jamovi.org>.
- User Local,Inc.(2024). 生成AIチェッカー
- 読売新聞社(2023). 大学が出願書類に「チャット GPT」使わないよう呼びかけ…専門家「面接・筆記試験で能力見極めの動き強まる」, 読売新聞オンライン(2023/07/31)